

反省性を伴った批判的統合はどのように成立するか —大学生を対象とした学習指導の検討—

1-1. 批判的統合とは？ その困難とは？

複数のテキストの情報を関連付け、評価を行うこと。
次のような過程をたどる(小林、2010)。

①テキスト評価 ⇄ ②テキスト間関係の理解 ⇄ ③裁定

→②では、対立や矛盾に気づくことが重要になるが、**対立を整理することは大学生であっても困難。**

→③では、**反省性を発揮して**公正な判断を下すことが望ましいが、**読み手は自身と異なる立場の情報を無視したり、あげつらうことも少なくない。**

1-2. 研究の目的と方法

大学生を対象に、複数テキストの批判的統合を求める学習活動を実施し、**反省性を発揮する批判的統合がどのように成立するのか**を明らかにする。

1. 対立・競合する議論を含むテキスト群と学習課題を設定する。
2. **テキスト間関係や重要な観点の把握を補助するツール**を開発する。
3. 学習活動を実施し、主としてテキスト間関係の理解の水準に焦点をあてた分析を行う。

2. 実践の概要

R4年に中等国語科教育法を履修した学生15名を対象に、特定の論争について複数テキストをもとに少人数(班)で協議する学習指導を6時間(1日2時間)行った。
1日に1つのテーマを取り上げ、徐々にテキスト間関係が複雑になるようにした。
展開は個人の裁定→班の議論→個人の裁定を基本とした。

主な手立て

- ・右図の**フレーム**を用いて議論の「背景」と「根拠」や「根拠」同士の関係を班で整理する活動を繰り返す。
- ・班で議論する際は、**異なる立場へ配慮する**だけでなく、2日目からは、**根拠を可能な限り挙げてから、重要な観点を考えて根拠の重みづけをするようにした。**
(⇒自分の立場に有利な根拠だけに注目したり、偏った観点のみで議論することを避けるため。)

問題の背景と争点	(～が問題になっている)	
立場/提案	(〇〇に賛成)	(〇〇に反対)
問題の関係者	(～が～の立場だ)	
根拠 (文章の情報)	(～(資料①))	
根拠 (オリジナル)	(～が考えられる)	

図1 テキスト間関係の整理に用いたフレーム

※googleドキュメントに合わせて拡大して用いた。

- 図1はテキスト間の情報の構造を次のように捉えている。
- ・論争が起こる「背景」とそのなかで焦点化されている「争点」のもと、大きく2つの代表的な「立場」(主張)とそれらを支える「根拠」が存在する。
 - ・根拠間の関係は、**情報が矛盾する「対立」関係や、ある立場を有利にする「競合」関係に分けられる。**根拠の検討においては、争点との対応も考える必要がある。

3. 実践の分析と考察

3日目の実践の個人の裁定を対象に、テキスト間関係の理解の水準を分析する。3日目は、「慣用表現」を巡る4つのテキストを読んで議論した。議論後の最終的な個人の裁定を分析すると表1のようになった。

表1 3日目のテキスト間関係の理解の水準

	テキスト間関係の評価基準	人数
1	自身に有利な立場の情報のみを用いている。	4
2	複数の立場の情報も用いているが、双方の立場の対立・競合する関係の把握に至っていない(矛盾の見逃しや無視など)	7
3	複数の立場の対立・競合する関係の把握し、重要とされる情報を用いている。(矛盾の解決)	4

- ・水準2以上の割合は7割を超えるが、水準3は3割に未滿。
→**フレームの記述は情報間の整理を促すが**、争点をめぐる矛盾を解決することに寄与するとは言えない。
- 水準3の割合が高い4班の議論で何が起こったのか？**

質的分析と考察

4班は、情報を整理したあと、唯一立場の異なる学生Xを納得させる妥協点を考えることに苦勞する。このとき、**Xが根拠とするテキストに潜在する価値観の解釈**を契機に、**妥協点を探る議論が進んだ。**

→反省性を伴った批判的統合が成立する過程とは

- ①テキスト間関係の理解が水準2に達している
 - ②**自身の立場だけでは説得できない他者と出会う**
 - ③各立場の背景にある価値観や信念を理解する
 - ④重みづけを決定する際に、より建設的な解決策を提案することで、矛盾を解消しようとする
- 他の班でも**異なる立場に配慮しようとする姿勢**はみられたが、②のような議論の他者との出会いがなかった。ここから今後は、各立場の信念等を捉える読みを促すことが必要だと考えられる。

本研究は大阪教育大学紀要への投稿を予定している。